

廃校再活用で新イノベーション施設

やまがBASE

やまがBASE(株)は3月29日午前11時半から、熊本県山鹿市の廃校を改修したイノベーション施設「YAMAGA BASE」のプレスツアーを実施した。

これは、コワーキングスペース(写真)やシェアオフィスといったイノベーション支援施設に加え、ワーケーションや農泊など、幅広い用途を持った宿泊施設。飲食スペース、動画配信スタジオ、キッチンスタジオなども併設され、新たなイノベーション拠点としての役割が期待される。

活用された旧千田小学校は2017年に閉校。23年1月に山鹿市がプロポーサル方式で希望者を募集、同年2月にやまがBASEが選定候補先に採択され、改修工事は同年10月から着工していた。

廃校はただ再活用する

だけでなく、ここでしか味わえないもの・できない

いコトに重きを置き、次の2点に注力。①廃校を活用した地方発のイノベーション創出のため、山

鹿の歴史や文化を踏まえたデザインを随所に取り込む。それにより子どもから大人まで、自由なコ

ミュニケーションが生まれる空間を目指す②内装には山鹿灯籠職人による灯籠照明 来民(くたみ)うちわなど伝統や文化を取り入れることで、山鹿の魅力を感じられる空間とした。これにより、山

鹿に想いを寄せてもらうきっかけを与え、交流人口の拡大、人口減少や産業衰退などの課題解決に貢献する――。

主なターゲットは起業家や起業を目指す学生(企業や学生の合宿利用の要望も有)、地元住民や農業体験を希望する人など。運動場・交流スペース・レクリエーションスペースなどは無料で使えるため、地域住民にも開かれた施設となっている。

前述の概要説明も含め、報道に対する質疑応答は



ベントには地域住民ら約500人が参加し、施設内を自由に見学した。

詳細は左記の通り。

▽事業者・運営者／やまがBASE(株)▽所在地／熊本県山鹿市鹿史町

プロジェクトプランナーである(株)スペースの三木大輔課長が務めた。「既存の価値観にとらわれず、新たな気付きを与えてイノベーションを誘発させる空間をデザインコンセプトとしている」「商業施設でいかににぎわいを創出するかを日々追求しているため、今回も、その場所で行う行為が生まれるのかなど、先を見通すノウハウが生きた――」など、企画実現までの道のりを語った。

30日のオープニングイベント
E-mail:info@yamagabase.com